

かながわ異グ連ニュース

！大分県／神奈川県 異業種交流会が開催されました！

芝 忠

9月15日(水)、**大分県工業団体連合会(工団連、秋月睦男会長)** 13社15名(工団連副会長 鈴木規夫氏以下各社代表及び事務局から江藤博明事務局長と大津美由紀氏)が来県され、神奈川県金沢地区の産業団地内企業2社(田中サッシュ工業株、日本シャフト株)を見学いただき、またK I K(‘85神奈川異業種交流プラザ、14名)とMBC(首都圏ビジネスコミュニティ、9名)との合同交流会に相乗りする形で広域地域間交流を行っていただきました。

当日は多団体・多人数のため、①大分県工団連は最初に田中サッシュ工業株を見学し、次いで日本シャフト株見学後、再び交流会場の田中サッシュ工業株へ戻り、②K I Kは日本発条株本社工場を見学後、大分県と合流し交流会場へ、③MBCは田中サッシュ工業株の見学後そのまま交流会場へ、というタイムスケジュールでしたが、各団体の幹事さんの采配で混乱もなくほぼ定刻どおり交流会を開催できました。

交流会は田中サッシュ工業株の社員食堂をお借りして開催しました。1時間という短い中で少しでも議論が出来るようにと、3ブロックに分けてのミーティングを行いました。結構突っ込んだ意見交換が出来たようです。その後、JR杉田駅前の「寿司“兼”」で懇親会に入りました。2時間余で自己紹介なども行いましたが、すでに半日行動を共にしておりましたので、お酒が入り一層のこと大変な盛り上がりで終了しました。

大分県工団連 鈴木副会長は大分県異業種団体協議会会長も兼務されています。また主催者側の神奈川異グ連南出健一議長はMBC会長、異グ連 岩橋洋江理事はK I K会長、異グ連 芝事務局長はK I K事務局長、異グ連 渡部事務局次長はK I K事務局次長ということで、皆さん多数の役職を兼ねておられ、まさしく異業種交流組織の広域交流会でしたが、懇親会場の寿司屋の屋号が“兼”という特番のおまけ付でした。

大分県側からは金属製品加工業2社の見学が大変参考になったし、また後半の交流会や懇親会も素晴らしかった、との感想をいただき、主催者側として安心しました。ゲストとして神奈川新聞社 三好秀人編集委員やNPO法人「IES国際交流支援協議会」岡田めぐみ理事長にも参加いただきました。

見学を受け入れていただいた各企業様、さらに交流会場を提供いただいた田中サッシュ工業株様には大変なご苦勞をおかけしました。紙面を借りて心から御礼申し上げます。

主要な“かながわ異グ連”のプロジェクト、及び研究会の活動報告、PR

オールディーズ・シニア・クラブ

小林BC

第2回チャリティ映画祭 盛会裡に終わる！

9月11日(土)開催の映画「ホーム・スイートホーム2」鑑賞会には昨年を上回る多数の方々がお見えになり、我々関係者を勇気づけてくれました。

痴呆症の父親を介護する家族の涙と笑いのホーム・ドラマでしたが、忘れかけていた親子の絆の大切さや地域社会との連携など、高齢化社会における課題を提供して共感と呼んでくれたものと思います。目頭を押えていた女性の方も見受けられ、映画と観客が一体となった時間を過ごせたと自負しております。

チケット販売等にご協力いただいた皆様、心より御礼申し上げますとともに、今後とも、当クラブのチャリティ活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

高機能・環境舗装等プロジェクト

織方BC

舗装材のバインダーとしての複合成繊維樹脂を「アースワン」という名称で商標登録をしました。新舗装材以外にも、二次製品として、例えば、某NPO法人と提携して、視覚障害者向け歩道用の「エスコートライン」を開発中です。更に船舶用の甲板用(強度で軽量)として、或いは、汚泥を混合再生した「はまレンガ」での利用等、R&D強化や、販促体制の整備を併行して行うことも必要となってきました。

<p>第47回日韓ビジネス協議会 高橋BC</p> <p>第47回・日韓ビジネス協議会は9月30日(木)に開催された「2004国際中小企業異業種交流シンポジウム」に参加しました。</p> <p>今年度は日本が開催国で日本が100名、韓国46名、台湾41名その他の諸外国の参加はありませんでした。<内容は下記の通りでした></p> <ul style="list-style-type: none"> ●特別講演:「異業種交流から宇宙に挑戦」秋山千尋氏(大阪異グ交) ●韓国との交流事例:鈴木規夫氏(大分異業種団体) ●韓国、台湾の参加企業のプレゼンテーション ●日本・台湾の交流事例(対談形式) ●交流懇親会・グループ交流・個別商談 ●アトラクション(津軽三味線演奏)・閉会式 <p>第48回・日韓ビジネス協議会は下記予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日時:10月27日(水)午後3:00~5:00 2. 場所:(社)韓国貿易協会・東京支部 3. 会費:1,000円(簡単な懇親会を含む) 4. メイン講演者: 韓進海運の崔代表「日韓の海運物流について」 関心ある企業の参加を歓迎致します。 参加時には事務局の高橋まで連絡して下さい。 TEL:045-311-0094 	<p>シフト21 有村BC</p> <p>「シフト21」は経営変革を目指す企業と人の交流を図るグループで、業種・業態を問わない幅広い交流を目的としています。毎月第2火曜日に定例会を開催し、外部講師による講演、会員からの話題提供による議論、先進企業視察などを通じて交流と研鑽を図っています。</p> <p>10月定例会は10月12日(火)に(株)湘南びゅあ様(平塚市)の見学研修を行いました。</p> <p>11月定例会は、当会員の嶋宣之氏(弁理士・ベル特許事務所所長)に、「創造性を生かした商品開発」と題しまして、弁理士の立場から見た商品開発の現状と、効果的な開発方法について話を伺います。日時:11月9日(火)午後6時~。場所:東武第三ビル(横浜駅徒歩10分)。シフト21では参加を歓迎しております(初回参加は無料)。お問合せは有村までお願いいたします。 hda00467@nifty.ne.jp</p>
<p>三浦海洋深層水を楽しむ会 八幡BC</p> <p>9月の定例会では、深層水から試作した「ニガリ」を用いて製造した(有)高梨商店の焼き豆腐2種の品評を行い、全員一致でそのうちの1種に軍配が上がった。</p> <p>三浦の住民でも、未だに海洋深層水とは何か全く無知な人が多いと慨嘆の声があり、本会の傍聴とかシンポジウムなど積極的にPRする必要があることが確認された。また濃縮水、天然塩、ニガリ等の製造について家内から工場生産への道を拓くことも今後の課題となった。</p>	<p>中小商店活性化プロジェクト 相楽BC</p> <p>「茅ヶ崎商店会振興プロジェクトスタート」(担当BC:杉本明子BC)</p> <p>一昨年に「中小商店活性化プロジェクト」が発足しましたが、その中に、事例の一つとして、このたび、表記のプロジェクトがスタートしました。9月24日(金)プロジェクトメンバー6名が訪問しました。</p> <p>去る3月、茅ヶ崎商店会から、芝事務局長に講演依頼が届きました。「商店街活性化について」というテーマでした。そこで、「中小商店活性化プロジェクトチーム」が訪問し、その状況を見学して意見交換を行いました。その中から、このたび「茅ヶ崎市商店会振興プロジェクト」を発足させ、杉本明子BCを中心に取り組みことにしたものです。</p> <p>『環境』をキーワードにして、リサイクルに力を入れている地区ですが、特に「リターナブルワイン」については酒屋さんがピン引取り(1ピン5円)を行い、全商店でノーレジ袋を進め、さらに年末には、地元の宮田工業とタイアップした「メイドインチガサキ」というブランドで軽快な自転車を発売するという。これらの取り組みに支援をするものです。</p> <p>今後の活動にご期待ください。</p>
<p>新防食技術活用プロジェクト 田中(繁)BC</p> <p>10月14日(木)に久里浜の(独)港湾空港技術研究所の見学会を開催します。横浜国立大学朝倉教授も同行し、一般企業の参加者も含めて、現地での防食相談会を開催します。</p>	<p>公的補助金活用普及研究会 志岐AD(研究会事務局長)</p> <p>(1)『第74回新技術開発補助金』の公募情報です。 国産技術で、一年以内に実用化の見込みがある事業が対象。補助率は開発に必要な費用の1/2以下(一千万円が限度)。公募期間は10月1日~10月20日まで。申込みは(財)新技術開発財団 03-3775-2021</p> <p>(2)セミナーを開催します。 日時:H16年11月25日(木)18:15~21:00 場所:大田区産業プラザ1F B会議室 講師:「公的補助金獲得の秘訣」松井利夫(診断士)、「雇用関係の助成金」新山光一(診断士、社労士)</p> <p>(1)のサポート希望及び(2)の問い合わせ・申し込みは、03-3209-0841 bsupport@dream.ocn.ne.jp 志岐へ</p>

異業種ネットワークフォーラム (INF)
第6回全国大会 in 石川
経営戦略におけるデザインとIT～独創性と商機の創造を目指す～

Date : 平成16年11月5日 (金) Place : ホテル日航金沢 (JR金沢駅前)

Fee : 御一人様6,000円 (資料、懇親会費)

Schedule : 9:30 受付開始
 10:00～ ITビジネスマッチング (展示コーナは18:00まで)
 10:00～12:00 広域ネットワーク化研究会
 13:00～13:20 フォーラム大会開会、主催者、来賓挨拶
 13:20～14:20 基調講演 平野拓夫氏 (金沢美術工芸大学学長)
 14:30～16:30 分科会 (6テーマ毎のワークショップ)
 16:40～18:20 パネルディスカッション、分科会報告
 18:30～20:20 交流懇親会 (名刺を50枚以上ご用意ください)

主催 : 経済産業省、(社)石川県ニュービジネス創造化協会、INF全国大会第6回実行委員会、Eジャパン協議会、(独)情報処理推進機構、(財)日本産業デザイン振興会 後援・協賛 : 多数

参加申し込みはFAX076-268-1929、インターネット (<http://www.inf-kanazawa.com/>) でも出来ますが、神奈川県異業種グループ連絡会議事務局 (芝、志村、田中) にも抽選券、昼食券付の前売りチケットがありますので、お買い求めください。

産学官交流サロンのコーナー

3つの産学官交流サロンによせて!

個別中小企業対策から交流会型の支援策へ

芝 忠

本年3月からの神奈川新聞経済面の大改革により始まった「私の処方箋—活性化への提言」シリーズへの3回目の投稿 (9月15日付け) で、神奈川県で3ヶ所目となる横浜交流サロンの発足に際し、何故こうしたサロンが必要なのかを開陳しました。要約すれば、従来、どの中小企業支援機関も行っていた個別的な経営対策から、経営者自身が様々な交流の中からヒントを掴む“場”作りへ転換すべきだという主張です。

以下記事の内容をそのまま転用させていただきます。

『我々の部署の年間相談件数は10年前の約4倍、8千件程である。これらの相談は他の中小企業支援機関と同様に、担当者が自身の知見の範囲で助言するか、専門家を紹介する。しかし年々相談内容は高度化かつ複合化し、いわゆる専門家と称する人達の知識・経験を上回る場合が少なくない。またわれわれの人的ネットワークも限りがある。もし「相談しても役立たない」という様な風評が立てば支援機関の存続は危うい。

いま、全国で「産業クラスター (ぶどうの房の意)」作りが盛んである。これは1つの機関や地域に様々な機能やネットワークを集中させて支援拠点にするものである。確かに地方圏では目立つので有効かもしれない。しかし神奈川県のような大都市圏においては、無数の支援拠点がありながらも上記の事情により機能低下している危険性がある。中堅中小企業やベンチャー企業の場合は、既存の専門家の意見を聞くより同様な悩みを持つ中小企業経営者の体験の方が有効な場合が多い。また大都市圏には稠密 (ちゅうみつ) な人材が地域に潜在化しており、それらの有能な人材やネットワークを顕在化させることにより、新たな情報拠点になりうる。即ち個別的な経営・技術支援対策から、集団的交流型の支援対策に転換を図る必要がある。

我々は本年より「新産学官交流サロン」として川崎、横須賀、横浜地域で個人に着目した常設の交流サロンを開設した。ここは参加者相互が交流し合い、自身の課題を自ら発見する自立型の場である。こうした交流については既に20年前に「先導的技術開発を推進するためには、水準の高い情報はもとより異質の分野の情報など多数な情報を活用することが必要であり、企業ニーズにあった情報を提供する組織と研究者、技術者が生きた情報を交換できる自由な交流の場づくりを推進する必要がある」(頭脳センター構想に関する提言1980)*としている。今日でも有効であろう。出来るだけユニークな人材を集めたい。』

*頭脳センター構想とは神奈川県を知識集約型産業の基地にしようとする構想。

気楽に参加できる『神奈川新産学公交流サロン・よこはま』第一回の報告

第一回幹事 河津、小野川、相楽

第1回横浜サロンが9月22日(水)横浜馬車道のエクセレントⅢビルで開催されました。参加者63名で会場は立錐の余地もない盛況でした。川崎、横須賀での成功から横浜地区での開催が望まれていたものと思われれます。

(社)経営開発情報機構の河津理事長の司会で、芝事務局長がサロンの趣旨について述べ、課題提起は、はるばる岩手県より駆けつけて下さった岩手大学地域連携センター長・清水健司教授が「地域における産学官の連携のノウハウ」を苦労話を交えてお話いただきました。テーブルディスカッションは6つの島ごとに行われ、また島を越えた交流も盛んに行われました。定刻(20:30)になりましても話は終わらず、幹事の独断で2次会を行い2次会へ繰り出しましたが、20名ほどの方が参加され、これも終電ぎりぎりとなってしまいました。

気楽に参加できる『神奈川新産学公交流サロン・よこはま』第二回の開催案内

「産学公連携」は、日本の21世紀を担う経済の活性化、産業創出の原動力の一つであり、企業間連携をさらに発展させた中小企業の活性化政策として期待されています。

「神奈川新産学公交流サロン・よこはま」は、目的を県内の新産業創出、育成支援とし、多くの経済団体や企業、大学機関、公的機関の方々が個人ベースで、自由に、気楽に参加できる「交流型解決機能」を持つサロンとして、起業家や中小企業が抱える技術、経営上の様々な課題のテーブルマッチングを図ります。

日時： 10月14日(木) 18:00~20:30

場所： (社)経営開発情報機構 横浜市中区南仲通3-35 横浜エクセレントⅢビル 9F会議室

参加費：1,000円(テーブルディスカッションでの軽飲食代)

話題提供：電子新聞「ヨコハマ経済新聞」編集長 杉浦裕樹氏、「ラ・ムール建設計画」主宰 佐々木 毅氏

第2回幹事団：河津明男、池谷明彦、織方盛男

お問い合わせ：

「神奈川新産学公交流サロン・よこはま」幹事長：(社)経営開発情報機構 理事長 河津明男

横浜市中区南仲通3丁目35番地 横浜エクセレントⅢ

TEL 045-212-5546 FAX 045-212-5547 E-mail idea-info@ideabank.or.jp

！第4回三浦半島経済人サロンの報告！

八幡BC

9月24日(金)神奈川新聞社横須賀支社 5F会議室にて、第4回横須賀サロンが地元第一次産業の「農業・漁業の現状と課題」をテーマにし開催されました。

農業にしても漁業にしても、マクロ的立場からは、我が国策が貿易立国である限り、振興策には限度があることという深刻な前提を認識した。その中で農業については、冬場の生鮮野菜が提供できる貴重な土地であり、地産地消のネットワークづくりの努力と成果について地道な活動が紹介され、感銘を呼んだ。また漁業は、農業とか工業と異なり、狩猟産業としての苦衷として捕れる日と捕れない日が極端なこと。また量販店が自然物に対して工業製品と同じ発想で規格品を要求することなどから沿岸漁業が衰退していることが分かった。消費者も加わりこの国の食料の確保の仕方を論議し、国民運動にまで盛り上げなければ政治は梶を失っているというとなり、一地域の課題ではないとなったが、その中での対応に関しても意見が出された。知らない話が多すぎ反省しきり。

かわさき経済人ネットワークサロン第5回のお知らせ

田中(繁)BC

川崎サロンは10月13日(水)に川崎駅西口の川崎産業振興会館9階第3研修室で開催します。

「川崎市の中小企業の活性化と将来課題」のテーマで、川崎異業種研究会副会長、小林健一氏と川崎市経済局産業振興課長の小泉幸洋氏に問題提起をして頂き、参加者の皆様で川崎市の産業振興に関して、活発な意見交換をしたいと思っています。是非、ご参加ください。申し込みは神奈川県異グ連へ！

かながわ異グ連会員の方、会員でない方、どなたでも自由に情報交換・投稿が出来ます。

(投稿先：事務局スタッフ小野川利昌 onogawa@hkg.odn.ne.jp、FAX044-954-6254

相楽 守 mamorusagara@mve.biglobe.ne.jp FAX03-3701-9712)